

業務報告書

| 検印 3 | 検印 2 | 検印 1 | 期間/報告日 | 2013/6/12 ~ 2013/6/12 | 2013/6/18 |
|------|------|------|-----------|-----------------------|-----------|
| | | | 実 施 場 所 | グランドプリンスホテル新高輪「飛天」 | |
| | | | 所 属 / 氏 名 | システム開発部 | 日向 直毅 |

6/26 の三菱重工業株式会社の株主総会に出席しましたので、以下に報告します。

I 実施内容

1. 事業報告

(1) 概況

新しく取締役社長となった宮永俊一氏の挨拶では、東南アジアの成長はあるものの、欧州の政府信用不安などの世界情勢から、今後の業績見通しは厳しくなるとのコメントが印象的だった

(2) 事業報告

全体として、前期は円高の影響で苦戦したが、海外も含めて善戦しているのと共に、どの製品も競争力が高く、経済性に優れた製品を有している印象を受けた

工作機械など、競争激化による受注減少や、再稼働遅延や米カルフォルニア州での廃炉決定など、原発に対するマイナス要因があるものの、総じて堅調な動きだった

(3) 質疑応答

やはり、原発に関する質問が最も多く、次いで船舶の海難事故、モノレール事業の将来性、及び三菱自動車の支援問題等となった。

①カルフォルニア州の原発廃炉について、どうなっているのか？

伝熱管の摩耗が 38903 本中、1322 本あった (3.4%)。しかし、米原子力規制委員会 (N R C) の規定 (8%) は満たしている

②トルコへの原発輸出に関して、安全保障上または周辺諸国との関係上中止すべきではないか？ 国際規格の範囲で輸出を行っており、問題ない

③原発では福島と同じ事故の懸念はないのか？

三菱では加圧水型を採用しており、タービンに放射性物質が入らないことや、福島の沸騰水型と比較して圧力容器が大きいため、水蒸気爆発のリスクも小さい

④大型船舶の海難事故について、どうなっているのか？

商船三井のコンテナ船が荒天下のインド洋を航行中、船体中央部に亀裂が生じ、ホールド内への浸水により自力航行不能に陥り、その後船体中央部で 2 つの部分に破断して漂流した。乗組員は全員無事であり、現在事故原因の究明に全力を尽くしている

⑤モノレール事業について、将来性が無いのではないか？

今後はレールが 2 つのタイプが主流になり、自動無人運転車両システムが伸びると予想される

⑥為替レートはいくらで想定しているか？

1 ドル 95 円、1 ヨーロ 123 円で想定している

⑥三菱自動車の支援はしないのか?
三菱東京UFJ銀行を通して、法の範囲で支援していく

⑦韓国において、元勤労隊員らから提訴されている件について、どう対処するのか?
国の指針に沿って対応していく

II 所感

まず、初めての株主総会に出席させて頂き感謝したい。事業報告では、垂直統合型の企業として、多種多様な事業を展開していく中で、選択と集中が重要であることを改めて感じた。さらに、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、CSRなど、欧米の企業では非常に重要なコンプライアンスに対する重要性を理解して、経営革新を図る姿勢が見られた。

最後に業務で覚えた財務諸表の見方が、企業の財務内容を理解する上で大きな助けとなった。

以上